

21世紀：〈生活行為からの発想と暮らしスタイル〉の再構築

三井ホーム(株)環境推進室／文化学園非常勤講師 稲葉 修

5年ほど前にモンゴルに行きました。その前の年に優れた住環境事例のひとつとしてレッチワースに行ったのですが、やおら住居の原点を確認したくてぐずぐずしていたところ、東京大学(当時)内藤研究室との勉強会〈ブレ研〉でモンゴル行きの企画が持ち上がったのでした。

モンゴルの住居ゲルは一室住居。家族の共用スペースは屋根を支える2本の柱とストーブを中心に生活行為をサポートする様々なしつらえが至極あたりまえに配されていました。子供を抱える母親、姉と遊ぶ男の子、少しはにかみながらも微笑んでいた家族。生きるために家族の夫々が役割を果たす。その〈生命の輝き〉が忘れられません。



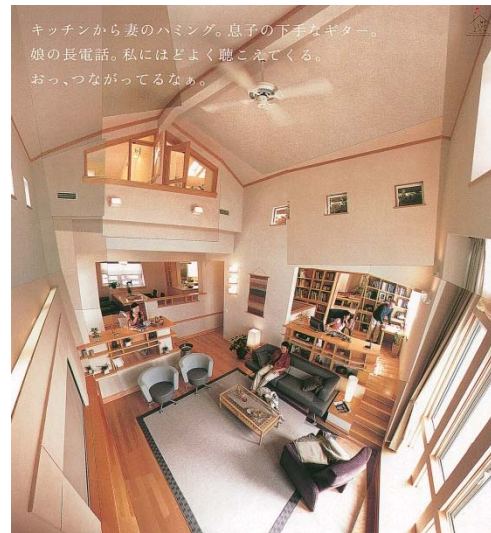
さて、日本のすまいと暮らしですが、その共用空間〈家族の居場所〉について考えてみましょう。それはしばしば、明るく・広く・快適になどの言葉で語られることが少なくありません。ではその居場所で〈居る〉とはどんなシーンでしょうか。TV、庭を見る、喫茶 など。これらはまさにあまり何もしないで〈居る系〉ですね。その他に、新聞を広げる、パソコンを使う、書き物をする、場合によっては仕事をするなど。これらは主体的な行動、〈する系〉と言えるでしょう。しかし、この〈する系〉は時として押さえが甘いのです。

〈居間はくつろぎの場 ⇔ リラックスする場〉と思い込んでいるからでしょうか。あるいは住居の平面(分類)パターンとしてのN+LDKがあまりにも普及してしまった為、そのパターンをベースに〈明るい・広い・快適〉などをキーワードとして具体的なスケールと関係を押さえてしまうからでしょうか。

この〈する系〉がサポートできない居間(家族の居場所)では、〈する時〉に2階の個室等に上がらなくてははいけなかったり、食堂のテーブルが〈する場〉となるケースが多いようです。食卓が〈する場〉となると食事のたびにかた付けなくてはいけなくて、そのたびに2階に行くのも面倒なので近くにちょっと片付ける。その場はあらかじめ片づけの空間が用意されていないのでどんどんモノがたまっていく。要するに〈家族の居場所〉とは〈何もしない家族〉の居場所になってしまっている訳です。自分以外の人とかかわる最初で最小のユニットが家族です。そしてその大きな役割の一つは〈記憶(思い出)・共生・継承〉。これらの結果が次第に広がる世界と共に広がって繋がっていく。住居計画の大きい目的の一つと考えています。

家族の一人ひとりが家族以外の社会との関係がますます増え、共有できる時間がますます減少している今、共有できる時間は食事の時ぐらいただと。住宅は〈食宅〉・家族は〈食族

>と称されたりもしています。皆さんの<家族の居場所>はいかがでしょう。<する場所>が用意されていると居場所は格段に働けるようになります。そして<する場所>の近くにはメンバーに対応した<置き場所・収納>を用意してください。TVに夢中の家族、ホームワークをしている家族、猫と戯れている家族。それぞれのすること、楽しみが終わったら近くの収納にすぐ片付け、次の行為にスムーズに移ることが出来る。動線ならぬ<DO線>がサポートできるしつらえ。一人で、皆で、お互いの時間を楽しめる<家族の居場所>が出来たら素晴らしいと思います。



キッチンから妻のハミング。息子の下手なギター。
娘の長電話。私にはよく聞こえてくる。
おっ、つながってるなあ。

家族に始まる<共・つながり>が次のスケールになるとご近所、知人達との場、仕掛けがここでも必要です。そのようなコミュニティ(の場)では必ずしも直接の相対は無くて良いと考えています。出入り口周りや窓辺からの情報発信。花を育てたり、好きなモノを置いたり、周りの樹木を管理したり。<私(達)はこんな人(家族)です>の間接的な行為の見える化、積み重ねが<地縁>や<知縁>となり人は繋がっていきます。短期でした

がアメリカ在住時にはガレージのオーバースライダーの開く土曜、日曜の、いわゆる日曜〇〇、ハッピーホリデーの飾りつけなどが繋がっていくシーンでした。

家族を超えた<ファミリー>が繋がっていくとき、どんな想いがその根底にあるのでしょうか。自由と幸せを求めて無限に広がる欲望と、有限の時間、資源、空間(規模)。このような矛盾的状况を認識するとき、新たな幸せの<イズム>が求められます。経済軸が最優先でない<持続可能な発展>のイメージを持たないとやがて破綻することでしょう。

最後にその暮らし<イズム>について、節減、縮小、最小といった言葉が多くの局面で語られる今、基本となる概念を<Minus: マイナス>ではなく先進・ポジティブ・ベターという意味で、あえて<PLUS>というキーワードを使っての整理を試みました。

■<Humanity Design> … 素敵暮らし・人生、そしてNEXTの為に

- P : Play With All … 私たちを取り巻くすべてのものと近い関係を
- L : Learn From Nature … 大きな自然から命・愛・循環を学ぼう
- U : Unite the World … 家や通りのスケールから地球までを繋げよう
- S : Steady and Study … 足るを知り、生涯学習を楽しもう

生活行為の<居る/する>・<PLUS/イズム>のレイヤーを生活ツールの一つとして意識する事で新たな自分⇄世界の具体的な発見、改善を楽しんでいただければ幸いです。